

遊びをせんとや 生れけむ

遊びをせんとや生れけむ 戯れせんとや生れけむ
遊ぶ子供の声聞けば 我が身さへこそゆるがるれ

——『梁塵秘抄』

日が落ちるまで友達と遊んだ、小さい頃の気持ちに帰るような、さまざまな「遊び」に関する本を集めました。

『遊び奉行』

野口卓／著 祥伝社 2012年



家老に就くべくお国入りした園瀬藩主の息子・永之進。藩政に不満を抱く若侍たちの期待を集めるが、武家には禁止されている盆踊りを踊った罪で、裁許奉行に降格されてしまう。人々の眉をひそめさせる、呆れたそのふるまいの裏には、乱れた藩政を糺すための遠大な策略があった。『軍鶏侍』シリーズ外伝。

遊び奉行とは…

正式名称を裁許奉行といい、家老職が健康で仕事に支障がなければ、月に一度、町奉行や郡代奉行の手に負えない訴訟を採決し、願いに対して許可を与えるのが主な役目である。実際には裏方の大変な仕事ではあるものの、禄が高いにもかかわらず月に一日の勤めでよいところから、「遊び奉行」と羨ましがられ、めったに公務の席に出ないことから、「蔭奉行」とも呼ばれていた。

『遊びをせんとや生れけむ』

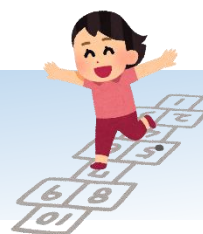
久世光彦／著 文藝春秋 2009年



“世の〈遊び〉とは、何て嬉しいものでしょう。お日さまにかざしてみればキラキラと輝き、水に浮かべれば、子供が流した笹舟みたいに、元気にクルクル回ります” ——昭和のテレビドラマ黄金期を創った名プロデューサー・久世光彦が綴る、最後のエッセイ集。

『街にあふれた子どもの遊び』

萩野矢慶記／写真・文 彩流社 2015 年



子どもの成長にとってかけがえのないもの、「遊び」。しかし突然出現したゲーム機によって、それまでの遊びは消滅に向かうことになった。1978 年から 17 年間にわたって、子どもたちの遊ぶ姿をカメラで追いつけた著者が、子ども本来の遊びと、その消滅に向かう過程をとらえたモノクロ写真集。

『鉱物レシピ 結晶づくりと遊びかた』

さとうかよこ／著 グラフィック社 2015 年



長い時間をかけて地球が作ったパーツ、鉱物。美しく輝くそれらを集め、ガラス瓶や標本箱に閉じ込めたり、コラージュしたり、水に沈めたり、光らせたり…。さまざまな鉱物や結晶の集め方、作り方、遊び方を美しい写真とともに紹介します。

『おうち遊びのワンダーランド』

木村研／著 いかだ社 2020 年



新聞紙に穴をあけて、破らないようにくぐり抜ける「そっとそっとの輪くぐり」や、チラシと割りばしで簡単に作れる「巻き巻きチラシごま」など、おうちで、親子で、楽しく遊べる 39 の「準備のいらない遊び」と「手作りおもちゃ」を紹介。おうちを遊びのワンダーランドに変える一冊です。

『西洋アンティーク・ボードゲーム 19 世紀に愛された遊びの世界』

エイドリアン・セビル／著 日経ナショナルジオグラフィック社 2021 年



16 世紀末に世に現れたボードゲームは、19 世紀に黄金期を迎え、美しさと創意を追求したさまざまなゲームが生み出された。いろいろな国、さまざまな時代のボードゲームを美しいカラー図版で取り上げ、カラフルで目に楽しいデザイン、遊び方、文化的・社会的背景、制作の工夫など、その魅力を伝える。

令和 3 年 6 月

編集・発行：さいたま市立与野図書館 さいたま市中央区下落合 5-11-11
TEL 048-853-7816 FAX 048-857-1946